

令和3年度県立高等学校入学者選抜学力検査 社 会

■ねらいと出題の内容、今後の学習のために

1 地理的分野の問題

【ねらい】地図、グラフ、表などの資料から有用な情報を適切に選択して活用する技能や、思考・判断・表現する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 本初子午線、経度 180 度の経線などの資料をもとに、南アメリカ大陸を通る西経 75 度について思考・判断する問題です。(2) インドの年間降水量の資料から降水の要因の一つである季節風とインドの稲作の関係について基礎的知識・理解を問う問題と、インドのヒンドゥー教について写真資料をもとに思考・判断する問題です。

(3) 輸出総額や輸出品目などに関する資料をもとに思考・判断する問題です。(4) ペルーに関する自然環境、農業、歴史的事項などの資料から、国名とペルーの位置について思考・判断する問題です。(5) インドシナ半島の名称について基礎的知識・理解を問う問題と、加盟国を示した地図を読み取り東南アジア諸国連合 (ASEAN) の略称について基礎的知識・理解を問う問題です。

2 地理的分野の問題

【ねらい】近畿地方を題材として、基礎的・基本的な知識や理解の定着をみるとともに、資料から読み取った情報を根拠として、思考・判断・表現する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 近畿地方の地形名称について、紀伊山地について基礎的知識・理解を問う問題と、紀伊山地の特産物について基礎的知識・理解を問う問題です。(2) 近畿地方の各府県の農業産出物、工業生産額、商業販売額の資料を読み取り、思考・判断する問題です。(3) 近畿地方の各府県から他の都道府県へ通勤・通学している人数及び大阪府・京都府へ通勤している人の割合の資料を読み取り、滋賀県について思考・判断する問題と、同じ資料から三重県と東海地方とのつながりの強さについて思考・判断して表現する問題です。(4) 地形図から等高線や標高点などの情報を読み取り、地形断面図を選択する思考・判断する問題と、地図記号について基礎的知識・理解を問う問題、さらに、読み取った地形図から地形の特徴について思考・判断して表現する問題です。

3 歴史的分野の問題

【ねらい】古代から近世にかけての日本とその周辺の諸地域との関わりをテーマとして、日本と諸地域との外交や文化の交流、貿易に関するできごと等に関する基礎的知識・理解の定着をみるとともに、日本の政治と時代背景を関連させながら思考・判断する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 唐の都の長安を手本に平城京がつくられたことについて基礎的知識・理解を問う問題と、班田収授法と墾田永年私財法の制定による土地制度の変化について基礎的知識・理解を問う問題です。(2) 鎌倉時代の幕府と御家人の主従関係について資料を読み取り、御恩と奉公について基礎的知識・理解を問う問題と、元寇時の鎌倉幕府の執権について基礎的知識・理解を問う問題、さらに鎌倉時代後期から室町時代前期にかけての歴史的なできごとと人物について思考・判断して、並べかえる問題です。(3) ヨーロッパの宗教改革についての資料を読み、思考・判断する問題です。(4) 年表や地図などの資料からアイヌに関する基礎的知識・理解を問う問題と、幕府が蝦夷地の警備を強化して北方探検を行った歴史的な背景を資料から読み取り、思考・判断して表現する問題です。

4 歴史的分野の問題

【ねらい】日本の近現代の政治を中心に、日本と世界の国々を関連させながら、近代から現代までの日本の歴史について概観し、多面的・多角的に考察したことを適切に表現する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 五箇条の御誓文に関係する基礎的知識・理解を問う問題です。(2) 地図から土族の反乱について思考・判断して表現する問題です。(3) 第三次桂内閣の成立から退陣までをまとめた資料から、護憲運動について基礎的知識・理解を問う問題です。(4) 戦間期の日本経済に関するできごとについて思考・判断して並べ替える問題です。(5) 1940 年開催予定だった東京オリンピックの開催権返上に影響を与えた、1930 年代後半のできごとについて基礎的知識・理解を問う問題です。(6) 農地改革について基礎的知識・理解を問う問題です。(7) 日本の国連加盟実現までの日本外交の流れをまとめた資料から、ソ連との国交回復及び日ソ共同宣言の調印について思考・判断して表現する問題です。

5 公民的分野の問題

【ねらい】「働く目的は何か」というテーマで、労働に関係する基礎的知識・理解の定着をみるとともに、労働をめぐる社会の変化や人口減少にともなう社会保障と財政の在り方について、思考・判断する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 労働基準法の内容について基礎的知識・理解を問う問題です。(2) 労働組合法について基礎的知識・理解を問う問題です。(3) 働くことの目的についての資料から正確な情報を読み取り、その活用と技能について問う問題です。(4) ワーク・ライフ・バランスについて基礎的知識・理解を問う問題です。(5) 日本の社会保障

制度のうち、公衆衛生について基礎的知識・理解を問う問題と、公的介護保険制度について思考・判断して表現する問題、さらに、日本の社会保障制度と財政の在り方について思考・判断する問題です。

6 公民的分野の問題

【ねらい】人権の保障を中心に憲法、三権分立、刑事裁判における役割、メディアリテラシー、公共の福祉による人権の制限など、民主主義の在り方に関する基礎的知識・理解をもとに資料を適切に活用して、思考・判断し、表現する力をみる問題です。

【出題の内容】(1) 立憲主義について基礎的知識・理解を問う問題です。(2) 三権分立を唱えたモンテスキューについて基礎的知識・理解を問う問題です。(3) 議院内閣制について思考・判断して表現する問題です。(4) 刑事裁判における役割とその役割を担う人について思考・判断する問題です。(5) メディアリテラシーについて基礎的知識・理解を問う問題です。(6) 公共の福祉による人権の制限について思考・判断する問題です。

■今後の学習指導のために

各大問とも、設定された課題やテーマを軸に、基礎的知識・理解にもとづき、様々な資料を活用しながら思考・判断したことを、表現する力をみることを大きなねらいとしています。このことは、学習指導要領が、知識・理解を有機的に結びつけ、社会的な課題に対処し、解決していく力を育むことを重視していることによります。そのためにも、単元を通したねらいと明確な評価規準を設定し、生徒の主體的・対話的で深い学びにつながる活動を重視した学習指導を行う中で、基礎的知識・理解の着実な定着を図るとともに、資料の活用を通して思考・判断し、表現する活動を一層充実させることが大切です。

■まとめ

社会科の学習指導では、身に付けた知識・理解を、社会的事象に対する課題の解決に向けて活用したり、応用したりする力を育むことが求められています。このことを受け、今年度も全分野において資料を活用し、思考・判断・表現することを求める問題を、これまで同様に設定しました。地理的分野では、特に資料の活用能力を重視して、地図や地形図の活用をはじめ、日本や世界の地域的な特徴などについて思考・判断・表現させており、歴史的分野では、日本の歴史と世界の歴史との関連や、過去と現在を結びつけるような資料を用いて歴史を概観させました。また、公民的分野では、労働三法、働く目的、社会保障制度、基本的人権、三権分立、立憲主義などに関する基礎的知識・理解と、現実の社会的事象を通して資料を正しく読み取る力を問う問題や、思考・判断し、表現させる設問を取り入れました。

■正解（次頁）

■正答率・部分正答率（％）

社 会	番 号	大	1								2								
		小	(1)	(2)			(3)	(4)		(5)		(1)		(2)	(3)		(4)		
				①		②		符号	国名	①	②	①	②		①	②	①	②	③
				S	T														
正答率	71.2	72.8	55.3	89.4	76.4	73.6	34.6	14.3	89.5	64.6	45.2	46.4	71.7	49.4	63.9	61.3	22.2		
部分正答率																			

3								4						
(1)		(2)			(3)	(4)		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
①	②	①	②	③		①	②							
73.5	91.4	79.8	59.2	44.7	70.7	86.0	13.6	43.6	24.4	47.1	22.5	40.5	64.2	37.3
							8.4							5.1

5							6					
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				①	②	③						
46.6	46.9	81.0	88.1	51.5	21.1	49.9	33.7	69.8	19.5	84.6	61.1	88.5
					12.2				9.9			